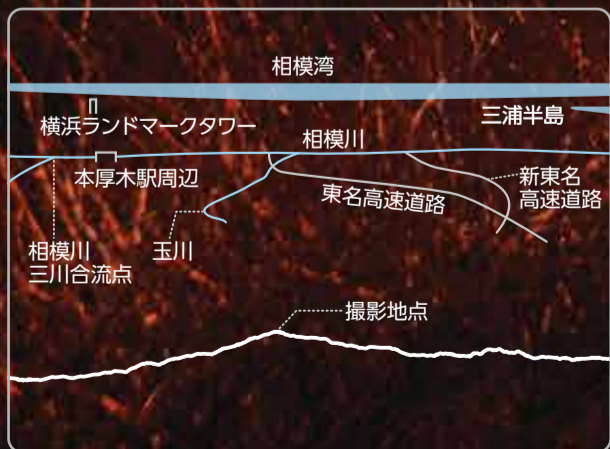


- 2-3 厚木から羽ばたく熱気人
- 4-5 新春対談  
生まれ変わる中心市街地  
明るい未来に向かって
- 6-8 街の話題/コラム/お知らせ

## 光 差 す 一 年 に



大山山頂（厚木市側）から見える日の出

真つ暗闇の山道を、小さな明かりを頼りにゆつくりと進む。木の根や岩でこぼこの足元を、一歩一歩確かめながら。  
歩みを進めると、木々の隙間の空が藍色に変わり、時折見える東側の地平に赤みが差してくる。山頂が近づくにつれ、空気はぴんと張り詰め、吐く息は白く、足元の霜柱はザクザクとにぎやかだ。  
標高1252mの大山の頂。白み始めた空を眺めていると、相模湾の向こうから、だいたい色の暖かな光が厚木のまちに差し込んだ。先の見通せない時代。光が差す一年になりますように。

厚木から羽ばたく

# 熱気人

厚木の地で技や思いを培い、夢に向かって歩み続ける「熱気人」たち。熱いまなざしの先には、明るい未来が広がっている。

◎広報課 ☎225-20400

## 落語でお客さん同士をつなげたい

**扇** 子を箸に見たててそばをすすり、床でトントンと戸を叩く音を表現する。昨年11月、愛甲小学校で開かれた寄席の一幕。初めて落語に触れた子どもたちは、周りの様子をうかがいながらも次第に柳家三郎さんの話に引き込まれ、友達と目を合わせ頬を緩ませる。気付けば会場は笑いで一つになっていた。



小学校では、高座を体験するコーナーも開かれた

昨年、真打ちに昇進した三郎さんだが、思春期の頃からこれといった将来の夢はなく、大学卒業後もアルバイトで生活していた。そんな中、落語好きの友人が食事中に「じゅげむ」を披露してくれた。友人が丸暗記するほど浸透している落語の世界に興味を湧かされた。

**プロフィール**  
1979年生まれ。依知中学校卒業。2005年に入門。2021年に「真打ち」に昇進。



落語家

## 柳家 三郎

と云われた。26歳で前座見習いになり、師匠の家に毎日通って、掃除・炊事をし、食事と一緒に取る生活が始まった。「社会と離れていた私にとって、脱いだ靴をそろえる、家に入る時は上着を脱ぐなど、当たり前のことを叱られるのが幸せだった」と三郎さんは振り返る。下積みの生活が続く中でも、辞めたいとは思わなかった。師匠の前に座り稽古を受けると、落語家になりたいと思った時の記憶がよみがえ

り、つらい気持ちは消えていった。下働きの前座の階級の時は、楽屋での仕事が早く終われば、師匠たちの落語を聞いて勉強できた。階級が二ツ目上がると制約は減り、高座で自由に話せるようになった。「やっと自分の実力が発揮できる」と挑んだが現実には厳しかった。仕事は思うように増えず、後輩にも抜かれた。考え込むこともあったが、自分の落語を見つけて一つ一つこなしてきた。再び落語が楽しく感じられるようになった頃、真打ちから「三郎の落語のスタイルが面白くなってきた」と言われたのを覚えている。

「落語は、私がお客さんという点と点をつなぐ手段。私の落語で点を線に変えられれば。昨年8月には、真打ち昇進記念落語会を厚木で開催した。高校の友人も来てくれ、疎遠になりつつあった厚木とつながれた気がした。コロナ禍でオンライン配信を始めたが、お客さんの顔を見ながら演じるのが一番楽しい。「今後は、生まれ育った厚木で落語の楽しさを子どもに伝えられたら」と話す。三郎さんの高座で振る舞う明るく楽しい落語は、その日、その会場に集まった人の架け橋となっ

た。体調を崩し中退。研究者一家で育ち、自分もその道歩んできたからこそ、目標を見失ったような心地だった。「ちゃんと就職しなきゃと不安で、目標もないまま就職活動をしていった」と当時を振り返る。就職活動の合間に、友人の事業の手伝いでデザインの仕事をした。その面白さに触れ思い起こされたのは、幼い頃、絵を描くことや本が好きだったこと。物語に没頭したくて、世界にどっぷり浸れるような長い話をよく

絵本作家

## のむらうご



## 手作りでの心に残る絵本を

「モノハシくんはみずうみのおつきさまをもつてかえるとおきなびんにいれました」。絵本を開くと現れるのは、切り絵やオイルパステルで描かれた動物たち。柔らかい月の光が差し、ふわふわとした毛並みを感じられそう。著者はのむらうごさん。絵本作家やイラストレーターとして活動している。のむらうごさんは元々、農学部から大学院の博士課程に進み、研究者を目指していた。しかし就職が決まり卒業を控えた時期

に、体調を崩し中退。研究者一家で育ち、自分もその道歩んできたからこそ、目標を見失ったような心地だった。「ちゃんと就職しなきゃと不安で、目標もないまま就職活動をしていった」と当時を振り返る。就職活動の合間に、友人の事業の手伝いでデザインの仕事をした。その面白さに触れ思い起こされたのは、幼い頃、絵を描くことや本が好きだったこと。物語に没頭したくて、世界にどっぷり浸れるような長い話をよく

に、体調を崩し中退。研究者一家で育ち、自分もその道歩んできたからこそ、目標を見失ったような心地だった。「ちゃんと就職しなきゃと不安で、目標もないまま就職活動をしていった」と当時を振り返る。就職活動の合間に、友人の事業の手伝いでデザインの仕事をした。その面白さに触れ思い起こされたのは、幼い頃、絵を描くことや本が好きだったこと。物語に没頭したくて、世界にどっぷり浸れるような長い話をよく

### プロフィール

1976年生まれ。毛台在住。絵本作家の他、イラストレーター、グラフィックデザイナーとして活動。著書に「いただきますーす」「Delicious Cicous」など。昨年第6回絵本出版賞審査員特別賞を受賞。

創作を続け3作が書籍化し、昨年出版した「まんげつ」のピクニック」は第6回絵本出版賞で審査員特別賞を受賞した。のむらうごさんが大切にしているのは、幼い頃に時間も忘れて絵本に没頭した時の気持ち。自分もそんな作品を作りたいと、常に新しい表現方法を模索している。「この描き方やってみよう！と思ったら試す。何よりも作る作業が楽しい。デジタルで描く技術を持ちながらも手作りでこだわるのは、手で作ったものこそ人の心に残ると信じているから。「手で作ったものには念がこもる」と画用紙のかけらを貼り、途方もない作業を繰り返す。現在も次回作を制作中だ。「大人になって読み返しても染みるような絵本を作りたい。人の心にずっと残るものを。そう話すのむらうごさんの目は、生き生きとした楽しさに溢れていた。



「まんげつ」の原画。中国やタイ、台湾でも出版が決まった

### 絵本作家のむらうごさん 原画展を開催

絵本「まんげつ」のよるのピクニック」の原画を展示します。  
《期間》1月5日～2月27日  
《場所》あつぎ市民交流プラザ  
◎広報課 ☎225-2040

## 勝つ喜びを力に次の舞台へ

**ウ** エットスーツを身にまとい、白波が立つ湘南の海に入っていく。フィンで強く波をかき分け、赤いボードを巧みに操るのは、我孫子咲良さん。全日本大会で優勝を果たした、今注目の高校生ポディボーダー。我孫子さんがポディボードを始めたのは、小学5年生の頃。競技経験のある両親と海に行ったのがきっかけだった。うまく波に乗れたのが楽しく、それから毎週のように海に通った。中学1年生の時、初めて出場した大会で優勝。その後も好成績を残し、「試合で勝つのが楽しい。もつとうまくなりたい」と、真剣に取り組むようになった。好調が続いた4年前の9月、ランクを上げて臨んだ試合で1回戦敗退。その後も成績は振るわず、できていたはずの技も決

まらなくなった。この状況を打開しようともがく我孫子さんの力になったのは、周囲の人の存在だ。両親や競技経験のある知人は波の見方や乗り方などの技術的な助言をくれ、学校の友人は親身になって話を聞いてくれた。我孫子さんは「海でも学校でも、友達と過ごす時間は楽しい」とはにかんだ。2年前、感染症の影響で大会が次々と中止に。自分自身と向き合う時間が生まれ、考え方が変わった。「周りの選手を気にして、焦っていた。一人で練習する中で、自分との勝負だと気が

付けた」と当時を振り返る我孫子さん。海に行けない期間は、ランニングや柔軟体操、イメージトレーニングなど自宅での練習を重ねた。昨年7月、再開された最初の大大会で努力が実を結び優勝。さらに10月の大会でも優勝し、年間チャンピオンを獲得した。「この大会で勝てば、年間チャンピオンを獲得できることは分かっていた。必ず優勝したかった」。競技人生で一番、強い気持ちで挑んだ試合だった。11月には目標だったプロ資格を取得。勝つ喜びと競技の楽しさを力に変え、次なる目標は「プロとしての勝」。我孫子さんの挑戦はまだ始まったばかりだ。

### プロフィール

2003年生まれ。温水西在住。厚木商業高校在学。昨年10月に福島県南相馬市で開催された全日本サーフィン選手権ポディボードウイメンクラスで優勝。年間チャンピオンを獲得した。



自宅から自転車で平塚の海に通っている

ポディボーダー

## 我孫子 咲良



あつぎ 元気Wave 1/1～CATVで放送



# 新春対談

梶田 佳孝 東海大学教授  
×  
小林 常良 市長

# 生まれ変わる中心市街地 明るい未来に向かっ



2021年は、市の顔である本厚木駅周辺の姿が大きく変わりました。今年の特対談では、都市・交通計画などの専門家であり、市都市計画審議会の会長でもある梶田教授を迎え、これからのまちづくりを語り合いました。

市街地整備課 ☎225-2470

**市長** 明けましておめでとうございます。市民の皆さんにおかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。  
昨年、感染症対策が欠かせない厳しい状況が続きました。しかし、逆境の中でも市の歩みは止められません。昨年は、市の玄関口である本厚木駅周辺の開発が進むという、明るい話題もありました。そこで、市の都市計画審議会の会長である梶田佳孝教授をお招きし、生まれ変わらなければならない中心市街地についてお話ししたいと思います。

### ◆歩いて楽しい駅前

**市長** 昨年は、本厚木駅南口のリニューアルや複合施設設計着手など、駅前景色が変化しました。梶田さんはどう受け止めていますか。  
**梶田** 駅前が発展して人が集まることに期待しています。活性化のきっかけになると良いですね。

**市長** 昨年3回実施した「本厚木駅周辺の歩いて楽しいまちづくりを考えるWS」に、梶田さんも出席していただきました。これからの中心市街地が目指す姿を考えるWSですね。  
**梶田** はい。まちでどんなことをしたいか意見交換したり、まち歩きをして良いところ・直したいところを探したりしました。参加者の皆さんとお話しして思いましたが、厚木には地元を愛している人が多いですね。私はアドバイザーという立場での出席でしたが、地域の潜在力を感じました。

**市長** 特に複合施設を含む中町第2地区の再整備は、市民の皆さんも関心が高い話題です。新施設は何より、市民の皆さんが「自分の施設だ」と思えることが大切です。たくさん意見を頂いて、まちづくりの核をつくりたいと思っています。  
**梶田** 計画には「歩いて楽しいまち」を目指すという流れは「車から徒歩へ」という流れは世界も同じです。例えばニューヨークでも、プロードウエーが今は歩行者天国です。

### ◆中心市街地の役割

**市長** 中心市街地を含めたまちの在り方は、少子高齢化の課題と切っても切れない関係があります。  
**梶田** 徒歩中心のまちになれば交通事故の心配も少なく、歩くことで健康にもつながり、環境にも優しいです。店や病院などが徒歩圏内であれば、高齢者にも暮らしやすくなります。多様な人が集まって交流する機会が増え、商業機能が高まる、新たな文化が生まれるなどのメリットもあります。そのようにして、集まった人が公共交通機関で市全体に広がっていく、その核になるのが理想です。

**市長** 市も取り組んでいる「コンパクト・プラス・ネットワーク」につながる考え方は。住まいと病院や商業施設などとの距離を縮め、公共交通機関で便利に移動できるまちを目指しています。  
**梶田** 厚木は手のひら型で、放射状にバス交通網があります。それらを快適に使えるようにして、市民の皆さんが安心して出掛けできる環境

### ◆市民協働でつくるまち

**市長** 言うまでもなく、まちの魅力づくりには市民の力は不可欠です。駅前の体感治安も、市民の皆さんと協働でセーフコミュニティ(※)に取り組み、大きく改善しました。  
**梶田** 厚木市にはコミュニティが多いため、連携できると強いですね。また、厚木は自然と市街地が共存しているまちです。特に川が近く、公園もある。回遊して楽しい要素はたくさんあります。今ある資源や魅力を生かしながら、整備を進めていくのが良いと思います。

**市長** 駅周辺の建築物や土木インフラが更新時期を迎え、今はいわばまちづくりのサイクルの変わり目です。もっと誇りと愛着を持っていくことになるよう、市民の皆さんと協力しながら進めたいと思います。梶田先生、今日はありがとうございました。  
※事故やけがは予防できるという考えの下、住民と行政が協力して安心、安全なまちをつくる取り組み。



《プロフィール》梶田佳孝さん(50)  
東海大学工学部教授、博士(工学)。専門は交通計画・都市計画など。2017年から市都市計画審議会会長。



3月にリニューアルした駅南口  
あつぎ過ごすらポミーティングの意見交換  
駅南口の空撮  
歩いて楽しいまちづくりを考えるWSでのまち歩き

## 本厚木駅周辺の取り組み

歩いて楽しいまちを目指して、新たな中心市街地の計画づくりや複合施設の整備などを進めています。  
市街地整備課 ☎225-2470

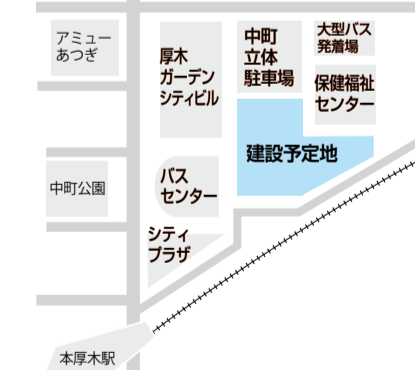
### ◆本厚木駅周辺歩いて楽しいまちづくり推進計画策定方針

人口減少や少子高齢化が進む中、持続可能な都市を目指して、行政と市民が連携し「歩いて楽しいまち」をつくるのが求められています。計画の策定に向けて2021年6月に、方針を定めました。

#### ●策定方針

- 《方針1》自分ごとで、厚木らしいまちづくりを  
市民の皆さんがまちづくりを「自分ごと」として捉えられるよう、検討組織の設置やワークショップ開催などを進めます。
- 《方針2》将来像を共有し、官民連携のまちづくりを  
住む・働く人や土地の権利者、行政などの関係者が互いに協力できるよう、まちづくりの目指す姿を共有します。
- 《方針3》未来に向かって、持続的なまちづくりを  
将来にわたってまちの魅力や価値を高めるため、まちを「育む」「使う」取り組みを進め、進捗が共有できる仕組みを取り入れます。

### ◆複合施設整備予定地



### ◆複合施設の整備に向けたワークショップ「あつぎ過ごすらポミーティング」参加者募集

複合施設の整備に向け、新施設でどのように過ごすかを考えます。  
《日時》2月12日 14~17時 《場所》第二庁舎  
《対象》市内在住・通勤・通学の高中生以上30人  
市街地整備課や市HPにある申込書を、直接または郵送、Eメールで2月3日(必着)までに☎243-8511 市街地整備課 ☎225-2470・✉5000@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。

## 本厚木駅前の将来に期待することは？

駅前周辺を使う市民の立場から、どうなしてほしいか、何をしてみたいかを聞きました。

**Voice** 東京工芸大学 榎山祐果さん(3年)  
建築士を目指し、建築学科で勉強しています。課題の一環で「本厚木駅周辺の歩いて楽しいまちづくりを考えるWS」に参加しました。駅周辺は普段、通学で朝夕に通るだけのことが多いですが、昼間はたくさんのお客さんが公園で遊んでいたり、買い物客が行き交っていたりと、幅広い年代の方が過ごしているのだと改めて新鮮に思いました。複合施設や周りの整備が進んだら、図書館や新しい雑貨屋さん、カフェで過ごしてみたいです。

**Voice** 本厚木駅北口地区市街地再開発準備組合理事長 高梨洋平さん(44・中町)  
10月にできた、北口周辺の権利者でつくる再開発準備組合理事長を務めています。建築物の老朽化や歩行者スペースの不足などの課題を解消するのに加えて、すでにある「本厚木駅に行けば楽しく過ごせる」というイメージに相乗効果が生まれるものをつくりたいと思っています。住んでいる人も用が来て来た人も、「これがあるのが良かった」と思えるようなものは何か、組合員と一緒に考えたいと思います。

**Voice** 旭町1丁目自治会 自治会長 福田順一さん(72)  
就職を機に厚木に来て、旭町には31年住んでいます。3月に南口がリニューアルし、新たなランドマークとして再開ビル「本厚木ミハラス」ができました。立派な建物ですが、大切なのは施設よりもそこで暮らす・過ごす人であり、地域の結び付きだと思います。管理組合理事会に出席した際、新住民の皆さんの積極的な姿勢から「よい施設にしたい」という思いが伝わってきて、期待が膨らみました。新しい住民の皆さんの熱意が、建物のみならず、地域にも広がり、一緒に未来を築いていけたらうれしいです。



## 金メダリストが一日署長

事故が増える年末に向けて交通部隊出発式を実施



集まった人に交通安全を呼び掛けた山田選手

音楽隊によるドリル演技や、取り締まりに当たる白バイ・パトカーなどの点検の様子が披露されました。家族連れや近隣住民など約300人が訪れ、反射キーホルダーや啓発チラシなどが配られました。

交通量が増える年末に向け、厚木警察署と市が交通安全を呼び掛けるイベントを開きました。

一日署長は、厚木市出身で厚木商業高校卒業の東京五輪ソフトボール競技の金メダリスト・山田恵里選手が務めました。山田選手は「どこにどんな危険が潜んでいるか分からない。一人一人が交通マナーを大切に考え、事故のない世の中になれば」と話しました。

イベントでは、

## まちを歩いて魅力や課題を発見

中心市街地の未来を考えるワークショップを開催

より快適で過ごしやすい中心市街地の在り方を市民の皆さんと考えるため、「本厚木駅周辺の歩いて楽しいまちづくりを考えるワークショップ」を3回にわたり開催しました。地域住民や学生など延べ50人ほどが参加し、まちなかでしたいことなどを考えました。

第2回では事例紹介の後、4班に分かれ駅周辺を歩きました。良い点や改善したい点を写真やメモで記録した参加者からは「散策中に休憩できるスペースが欲しい」「駅前広場に滞在しやすい空間をつくりたい」などの意見が出ました。その後は、意見を地図にまとめ、班ごとに発表。意見は今後、歩いて楽しいまちづくり推進計画の策定に生かします。



まちの課題などを話し合う



## 未来のアスリートへオリンピックが指導

バドミントン元日本代表潮田玲子さんが講習会

参加した藤塚中学校1年の吉本琳音さんは「憧れの選手に指導してもらえてうれしかった。教わったことを今後の練習に生かして、もっと強くなりたい」と笑顔で話しました。



中学生の質問に真剣に答える潮田さん

アカデミーは、トップアスリートの誕生を目指し、市スポーツ協会が主催。当日はレシーブやショットの練習を通じ、潮田さんらが参加者のプレーを見て直接アドバイスをしました。講師と参加者の代表による模擬試合では、トップレベルの技やショットの速さに参加者から歓声が上がっていました。

南毛利スポーツセンターで12月に、北京・ロンドン五輪に出場した潮田玲子さんらを講師に招いたバドミントンアカデミーが開かれました。77人の中学生が参加し、実技のほどこきを受けました。

## あつぎ子ども美術展を初開催

あつぎ市民交流プラザに子どもたちの作品がずらり

子どもたちの個性豊かな絵画が、あつぎ市民交流プラザで開かれています。クリスマスや雪だるまなど、冬をテーマにした作品23点が飾られ、施設利用者の目を楽しませていきます。作品は、2月28日まで展示され、市ホームページでも見られます。



作品はアミューあつぎの6階に展示



## 第3回 みんなで! SDGs

持続可能な社会を目指す世界共通の目標「SDGs」。その達成のために17の目標を知り、できることから実践しませんか。

### 目標8 働きがいも 経済成長も

日本は世界に比べて労働時間が長く、過労死などが社会問題になっています。労働環境を改善し、誰もが仕事に喜びや働きがいを感じられる社会を目指しましょう。



### できる取り組みは?

#### ワーク・ライフ・バランスを

働き過ぎは心身に悪い影響を及ぼします。日々の業務を見直して仕事の効率を上げ、仕事以外の生活とのバランスが取れるよう心掛けましょう。

- ・テレワーク（在宅勤務）を活用
- ・無駄な会議や仕事をなくす
- ・休みやすい、帰りやすい職場環境に



国際フェアトレード認証ラベル

#### フェアトレード商品の購入

世界には、低賃金で長時間の労働を強いられている人が多くいます。食品などの購入は、生産者などに正当な報酬が支払われるフェアトレード商品を購入しましょう（該当品には認証ラベルが貼られています）。

企画政策課 ☎225-2450

## 新たな時代を切り開く



市議会議長 井上 武

明けましておめでとうございます。幸多き新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。日頃から、市議会に對しましてご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、感染症の収束が見えない中、市民の皆さんへの支援に係る補正予算などを、迅速かつ的確に審議してまいりました。感染症との闘いは続いてまいります。この状況を市民の皆さんと乗り越え、新しい時代を切り開いてまいります。

議会のさらなる活性化と機能の向上など、より一層、議会改革に努めてまいります。本年が皆さまにとって、輝かしく実り多き年になりますよう祈念申し上げます。年頭のごあいさついたします。

### 市議会の活動

#### 議会の様子を映像で配信

インターネットで議会の様子を生中継しています。過去の会議も、議事録ができるまでの間は録画放送を配信。パソコンやスマートフォンから視聴できます。



開催日程は市議会だよりや市議会HPに掲載

厚木 議会 中継 検索



議会報告会  
議案の審議内容の報告や自由に意見を交換する場として開催

行政視察  
議会改革の一環でオンラインを活用



# タウンガイド

1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

☑=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号  
 ㊚=ファクス番号 ✉=Eメール HP=ホームページ  
 📍=講座予約システム(インターネットで申し込み可)  
 市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」で届きます。

## あつぎのしゃしん。



「雨上がり」

#12月1日撮影  
 #虹  
 #厚木中央公園  
 #niceatsugi  
 広報課公式イン스타그램で公開中



1月5日～二次販売スタート

## あつぎ 飲食店応援 電子商品券

3000円で5000円分使えるお得な電子商品券です。市内約300店の飲食店などで使用できます。

《対象》市内在住在勤在学の方1人5セットまで  
 ※1次販売で購入した方も追加で5セットまで購入可

《使用期限》2月28日まで

📅1月5日から公式HPで受け付け。先着順。



▲購入・使用方法、店舗情報などは市HPに掲載

📞商業にぎわい課 ☎225-2840

### 新型コロナウイルス感染症に関する県の相談窓口

新型コロナウイルス感染症専用ダイヤル(24時間対応)

感染の不安のある方、健康・医療の相談、診療ができる医療機関の案内など

☎0570-056-774

新型コロナウイルスの影響で掲載の催しが中止となる場合や、利用に制限のある施設があります。市HPで随時お知らせします。

### あつぎ介護フォーラム'21

1月22日、13時30分～16時。文化会館。医師らが「コロナ禍での地域活動・現状と将来を見据えて」をテーマに、介護活動や現状の課題・工夫を講演。無料。📍当日直接会場へ。📞厚木医療福祉連絡会 ☎222-1259。

### これであなたも検査値改善！特効・エクササイズ

2月1日、14時～15時30分。保健福祉センター。保健師・栄養士による高血糖を防ぐ講義、運動指導士による運動の指導。血管年齢・骨健康度測定も同時開催。市内在住の40～64歳15人。無料。📅1月14日までに健康づくり課 ☎225-2201へ。抽選。📍

### あゆコロちゃん体操講座

2月3日、14～16時。あつぎ市民

交流プラザ。指導員から体操を学ぶ。市内在住の方20人。無料。📅1月17日までに健康づくり課 ☎225-2201へ。抽選。📍



### 睡眠力アップ基礎講座・眠れるココロとカラダの作り方

2月4日、14時～15時30分。荻野公民館。睡眠と健康の関係・眠りの改善方法の講義と香り袋作り。ゲートキーパー養成講座も同時開催。市内在住の40～64歳15人。無料。📅1月14日までに健康づくり課 ☎225-2201へ。抽選。📍

### 市民実感度調査に協力を

市政運営の基礎資料とするため、市のまちづくりの取り組みへの実感度を調査します。対象者には1月下旬に調査票を郵送します。

《対象》市内在住の18歳以上5000人(無作為抽出)《内容》安心・安全、福祉、子育て、教育、まちづくり、環境などのアンケート調査。結果は広報あつぎや市HPなどに掲載。📞企画政策課 ☎225-2455。

### 科学指導員を募集

《対象》科学の普及に熱意のある18歳以上《勤務先》神奈川工科大学厚木市子ども科学館《勤務内容》プラネタリウム投影業務、科学教室指導、施設管理業務など《任期》4月1日～(最長1年間)《勤務時間》週1～5日(シフト制)、9時～17時15分《報酬》時給1075円(条件付きで通勤手当あり)。📍市HPにあるエントリーシートを、1月21日までに直接、子ども科学館へ。2月2・8日に面接あり。📞子ども科学館 ☎221-4152。

### 子育て世帯への臨時特別給付金(要申請分)

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた世帯に給付金を支給します。次の方は申請が必要です。

《対象》高校生のみを養育する世帯・公務員世帯(所得制限あり)。児童手当を受給している世帯は12月に支給済み《支給額》子ども1人10万円。📍市が送付する申請書と必要書類を、直接または郵送で3月31日(必着)までに〒243-8511子育て給付課 ☎225-2118へ。詳細は市HPに掲載。

### 広報写真コンクール市民投票

審査の参考とするための市民投票を実施します。

《期間》1月14日～2月4日《場所》あつぎ市民交流プラザ。📞広報課 ☎225-2040。

### 消防出初め式

感染症拡大防止のため、一般公開はありません。1月9日は各消防団施設で7時にサイレンが鳴ります。📞警防課 ☎223-9368。

広報あつぎに協力を

### 性別と「らしさ」に関するアンケート

性別と「らしさ」がテーマの特集を企画しています。皆さんの経験や思いを教えてください。

《設置場所》市役所本庁舎、あつぎ市民交流プラザ、中央図書館、保健福祉センター、子育て支援センター

《期限》1月21日まで



市HPからも回答できます

📞広報課 ☎225-2040



あなたの声を市に届けよう

## インターネットモニターに登録しませんか

広報あつぎや市広報番組「あつぎ元気Wave」などに意見を寄せる方を募集しています。

《対象》市内在住在勤在学の16歳以上で、Eメールの送受信とケーブルテレビまたはインターネットで番組を視聴できる方  
 《内容》毎月1回、Eメールで送るアンケート票に意見や感想などを回答

📍市HPから随時受け付け。



登録はこちら

📞広報課 ☎225-2043

### ホット

インターネットモニターからの意見を紹介



インターネットモニター募集中

厚木市 インターネットモニター 検索

📞広報課 ☎225-2043

12月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆人のつながりと温かさを感じた。一人一人違ってみんないと改めて思った/30代女性 ◆安心・安全の維持で3度続けてSC認証を受けたのはうれしい/70代男性 ◆学生の活動を見て発見や驚きがあった。厚木には厚木の良さがあるワクワクする場所や物が見られて良い企画だと感心した/60代男性 ◆お得な商品券で飲食を楽しみお店を応援したい/30代女性 ◆今年は鮎まつりが開催されたらうれしい/40代女性

### 編集後記

プロレス観戦が趣味で手ぬぐいには覆面をデザインした柳家三郎さん。趣味の話などにも明るく笑顔で応じてもらったのが印象的でした。小学校の公演では、三郎さんが話すにつれて会場の雰囲気が柔らかくなり、聞いている子どもたちにも人柄が伝わったように感じました。今後、厚木でも活動していきたいと話してくれたので、皆さんにも三郎さんの落語を聞いてもらえるとうれしいです/黒澤

あつぎ郷土博物館

# 新編相模国風土記稿が 描くあつぎ

無料

江戸時代に編集された新編相模国風土記稿で、当時の厚木の様子や人物・景観などを見てみませんか。  
 ☎あつぎ郷土博物館  
 ☎225-2515



▲頼朝公富士之御狩図

■展示 日時 1月15日～3月6日 9～17時  
 内容 地域の記録や人物が分かる資料約100点を展示  
 ☎当日直接会場へ。

■講座

- ①相模国霊場研究と「新編相模国風土記稿」原本の存在  
 1月23日。霊場研究で発見された風土記稿の原本を学ぶ。
  - ②「新編相模国風土記稿」編さんと神奈川県央地域の村々  
 2月6日。風土記稿を編さんする史料で県央地域各村の歴史を学ぶ。
  - ③新編相模国風土記稿と神奈川県央地域の旧家  
 2月27日。地域の方から県央地域各村の歴史を学ぶ。
- いずれも14～16時。各回50人。☎直接、電話またはファクスにて住所、氏名、電話番号、講座名を書き、1月①14日②28日③2月18日までにあつぎ郷土博物館☎246-3005へ。抽選。📧

あつぎ郷土博物館  
 開館3周年記念  
**渡辺華山ベスト10**  
**饒舌館長口演す**

江戸時代の画家・渡辺華山が送った人生をのぞいてみませんか。



つばき山筆「渡辺華山像」  
 (田原市博物館蔵)

日時 1月29日  
 13時30分～15時30分  
 内容 渡辺華山の絵画を学ぶ  
 定員 50人

☎直接、電話またはファクスにて住所、氏名、電話番号、講座名を書き、1月15日までにあつぎ郷土博物館へ。抽選。📧



厚木の旬な話題を届ける

## 市民リポーター募集

厚木の魅力や市のお知らせを伝えるリポーターを募集します。皆さんの視点で、地域の情報を発信してみませんか。

☎広報課☎225-2040

《活動内容》

- リポーター…市広報番組「あつぎ元気Wave」のレポートやナレーションなど
- カメラマン…イベントや風景などの撮影
- モデル…広報紙などの写真モデル
- 司会…イベントでの司会進行

《対象》 市内在住に勤在学の18歳以上30人程度

《報酬》 1回2千～1万円

《任期》 4月1日～(2年間)

☎履歴書(志望動機・希望の活動内容も記載)を直接または郵送で1月31日(必着)までに☎243-8511広報課へ。書類選考後、オーディション(2月19日)の詳細などを通知。



詳しくはこちら

あつぎ 元気Wave  
 1/1～CATVで放送

## 自然歳時記

●アオゲラ●  
 キツツキ科

体全体が黄緑色をしたアオゲラは、日本特産種のキツツキで、木に垂直に止まって餌を探す。前後2本の足指でつかみ、くさび形の堅い尾羽で支える。体長29センチほど、七沢で見つけた。 写真・文 吉田文雄



ヒヨドリの群れが、センドンの実をついばんでいた。にぎやかに鳴きながら会話を楽しんでいるようだ。

時々「キョッキョッ、キョッキョッ」と短く鋭い声が聞こえてきた。双眼鏡で注意深く見ると、センドンの幹に、頭の後ろまで赤い雄のアオゲラが静かに止まっていた。胸は灰色と

黒のおしゃれな横しま模様をしていた。幹の向こうに隠れたと思うとすぐに現れた。隠れたのではなく、らせん状に登りながら熱心に虫を探している様子だった。あまりにも美しい姿にしばし見入り、時の経つのを忘れてしまった。今年は良い年になりますようにと祈った。

厚木市の人口  
 (12月1日現在)

🏠世帯数 10万1811世帯(前月比12世帯減) 👤人口 22万3724人(前月比87人減) 男11万5278人・女10万8446人  
 2020年10月に実施した国勢調査の結果を公表しています。詳しくは [厚木市 国勢調査 検索](#)